

注3

大学番号：私192

[平成29年度設置]

計画の区分：学部の設置

注1

認可

鈴鹿大学 こども教育学部 こども教育学科

注2

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人享栄学園

令和元年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 大学・短期大学部事務局

職名・氏名 ジムキョクチョウ ツツミ ヒデノリ
事務局長 堤 秀紀

電話番号 059-372-2121

（夜間） 059-372-2121

F A X 059-372-2827

e-mail tutumih@kyoeigakuen.net

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に

()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・大学の設置の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、平成31年4月2日付事務連絡「履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

こども教育学部

＜こども教育学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	8
3. 施設・設備の整備状況、経費	18
4. 既設大学等の状況	19
5. 教員組織の状況	20
6. 附帯事項等に対する履行状況等	29
7. その他全般的事項	32

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人享栄学園

(2) 大学名

鈴鹿大学

(3) 大学の位置

〒510-0298

三重県鈴鹿市郡山町字西高山663番222

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(カキオ カズヒコ) 垣尾 和彦 (平成25年4月)	(イチノ ショウジ) 市野 聖治 (平成31年4月)	任期満了 平成31年4月1日(元)
学長	(イチノ ショウジ) 市野 聖治 (平成26年4月)		
学部長	(カワマタ トシノリ) 川又 俊則 (平成29年4月)		
学科長等			

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)

令和元年度に報告する内容 → (元)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
 ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合(令和元年度までの5年間)ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
 ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	收容定員	
こども教育学部	教育学・保育学関係	年	人	年次人	人	平成31年4月入学定員の変更 幼児教育学専攻50人→25人 (3年次編入学5人→3人) 養護教育学専攻50人→25人 (3年次編入学5人→2人) (元)
こども教育学科		4	50	5	210	
幼児教育学専攻		4	25	3	106	
養護教育学専攻 学士(教育学)		4	25	2	104	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

こども教育学科

区分	対象年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	0.35倍	- 倍	平成31年4月入学定員変更 80人→50人(元)
	()	()	()	()	80	(-)	80	(-)	50	(10)	()				
	[]	[]	[]	[]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]				
志願者数	()	()	()	()	21	(-)	31	(-)	34	(1)	(-)				
	[]	[]	[]	[]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]				
受験者数	()	()	()	()	21	(-)	30	(-)	33	(1)	(-)				
	[]	[]	[]	[]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]				
合格者数	()	()	()	()	21	(-)	30	(-)	33	(1)	(-)				
	[]	[]	[]	[]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]				
B 入学者数	()	()	()	()	20	(-)	24	(-)	29	(1)	(-)				
	[]	[]	[]	[]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]				
入学定員超過率 B/A					0.25		0.3		0.58						

こども教育学科 幼児教育学専攻

区分	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		平均入学定員 超過率	開設年度から 報告年度まで の平均入学定 員超過率	備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 40 (-) [0]	人 (-) []	人 40 (-) [0]	人 (-) []	人 25 (5) [0]	人 (-) []	0.33倍	- 倍	平成31年4 月入学定 員変更 40人→25 人(元)
志願者数	() []	() []	() []	() []	8 (-) [-]	- (-) [-]	15 (-) [-]	- (-) [-]	17 (-) [-]	- (-) [-]			
受験者数	() []	() []	() []	() []	8 (-) [-]	- (-) [-]	14 (-) [-]	- (-) [-]	16 (-) [-]	- (-) [-]			
合格者数	() []	() []	() []	() []	8 (-) [-]	- (-) [-]	14 (-) [-]	- (-) [-]	16 (-) [-]	- (-) [-]			
B 入学者数	() []	() []	() []	() []	8 (-) [-]	- (-) [-]	12 (-) [-]	- (-) [-]	15 (-) [-]	- (-) [-]			
入学定員超過率 B/A					0.2		0.3		0.6				

こども教育学科 養護教育学専攻

区分	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		平均入学定員 超過率	開設年度から 報告年度まで の平均入学定 員超過率	備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 40 (-) [0]	人 (-) []	人 40 (-) [0]	人 (-) []	人 25 (-) [0]	人 (-) []	0.36倍	- 倍	平成31年4 月入学定 員変更 40人→25 人(元)
志願者数	() []	() []	() []	() []	13 (-) [-]	- (-) [-]	16 (-) [-]	- (-) [-]	17 (1) [-]	- (-) [-]			
受験者数	() []	() []	() []	() []	13 (-) [-]	- (-) [-]	16 (-) [-]	- (-) [-]	17 (1) [-]	- (-) [-]			
合格者数	() []	() []	() []	() []	13 (-) [-]	- (-) [-]	16 (-) [-]	- (-) [-]	17 (1) [-]	- (-) [-]			
B 入学者数	() []	() []	() []	() []	12 (-) [-]	- (-) [-]	12 (-) [-]	- (-) [-]	14 (1) [-]	- (-) [-]			
入学定員超過率 B/A					0.3		0.3		0.56				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ 転入学生は記入しないでください。
 - ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 - ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
 - ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

こども教育学科

対象年度 学 年	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	20 [-] (-)	- [-] (-)	24 [-] (-)	- [-] (-)	29 [-] (-)	- [-] (-)	
2年次	/		[] ()	[] ()	- [-] (-)	- [-] (-)	18 [-] (-)	- [-] (-)	23 [-] (-)	- [-] (-)	
3年次	/		/		- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	18 [-] (-)	- [-] (-)	
4年次	/		/		/		- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	
計	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	20 [-] (-)		42 [-] (-)		70 [-] (-)		

こども教育学科 幼児教育学専攻

対象年度 学 年	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	8 [-] (-)	- [-] (-)	12 [-] (-)	- [-] (-)	15 [-] (-)	- [-] (-)	
2年次	/		[] ()	[] ()	- [-] (-)	- [-] (-)	7 [-] (-)	- [-] (-)	12 [-] (-)	- [-] (-)	
3年次	/		/		- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	7 [-] (-)	- [-] (-)	
4年次	/		/		/		- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	
計	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	8 [-] (-)		19 [-] (-)		34 [-] (-)		

こども教育学科 養護教育学専攻

対象年度 学 年	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	12 [-] (-)	- [-] (-)	12 [-] (-)	- [-] (-)	14 [-] (-)	- [-] (-)	
2 年次	/		[] ()	[] ()	- [-] (-)	- [-] (-)	11 [-] (-)	- [-] (-)	11 [-] (-)	- [-] (-)	
3 年次			/		[] ()	[] ()	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	11 [-] (-)
4 年次	/				[] ()	[] ()	/		- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)
計			[] ()	[] ()	12 [-] (-)	23 [-] (-)			36 [-] (-)		

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

こども教育学科

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成27年度	人	人	平成27年度	人	人	
平成28年度	人	人	平成27年度	人	人	
			平成28年度	人	人	
平成29年度	20人	2人	平成27年度	人	人	
			平成28年度	人	人	
			平成29年度	2人	人	進路変更、経済的理由
平成30年度	42人	1人	平成27年度	人	人	
			平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
			平成30年度	1人	人	転学部
令和元年度	70人	0人	平成27年度	人	人	
			平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
合計		3人		3人	人	

こども教育学科 幼児教育学専攻

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成27年度	人	人	平成27年度	人	人	
平成28年度	人	人	平成27年度	人	人	
			平成28年度	人	人	
平成29年度	8人	1人	平成27年度	人	人	
			平成28年度	人	人	
			平成29年度	1人	人	進路変更
平成30年度	19人	1人	平成27年度	人	人	
			平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
			平成30年度	1人	人	転学部
令和元年度	34人	0人	平成27年度	人	人	
			平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
合計		2人		2人	人	

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成27年度	人	人	平成27年度	人	人	
平成28年度	人	人	平成27年度	人	人	
			平成28年度	人	人	
平成29年度	12人	1人	平成27年度	人	人	
			平成28年度	人	人	
			平成29年度	1人	人	経済的理由
平成30年度	23人	0人	平成27年度	人	人	
			平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
令和元年度	36人	0人	平成27年度	人	人	
			平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
合計		1人		1人	人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成27年度】

$$\frac{\text{平成27年度の退学者数(a)}}{\text{平成27年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{2}{20} = \boxed{10} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{42} = \boxed{2.38} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{70} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
養護・保健教育課目	発達心理学	1後	2						1			
	基礎看護学	1後	2						1			
	基礎看護学実習	1後	2						1			
	学校保健(学校安全を含む)	2後	2				1					
	学校看護学	2前	2				1					
	衛生学及び公衆衛生学(予防医学を含む)(新編)	3前	2				1					
	解剖学	2後	2									1
	生理学	3前	2				1					
	小児看護学(小児保健を含む)	2後	2									1
	学校看護学実習	2前	2							1		
	臨床看護実習事前事後指導	2後	1							1		
	基礎臨床看護実習	2後	1							1		
	地域臨床看護実習	2後	1							1		
	養護概説	3前	2					1				
	学校保健演習	3前	2					1				
	衛生学及び公衆衛生学(各論)	3後	2				1					
	微生物学及び免疫学	3後	2									1
	栄養学(食品学を含む)	3前	2				1					
	薬理概論	3後	2									1
	ヘルスカウンセリング	3前	2									1
	臨床心理学	3後	2							1		
	学校環境衛生実習	3前	2									1
	精神看護学	4前	2									1
	スポーツ外傷・障害論(救急処置を含む)	4後	2									1
	精神保健	4前	2							1		
	健康管理学	4後	2				1					
	教職概論	1後	2				1					
	教育原理(養護・保健)	1前	2									1
	教育と社会(養護・保健)	2前	2				1					
	教育心理学(養護・保健)	2前	2							1		
	道徳教育の理論と方法	2前	2									1
	教育方法と技術(養護・保健)	2前	2									1
	教育課程論	2後	2									1
	教育相談の理論と方法	2後	2							1		
	介護等体験(事前事後指導を含む)	2前	2					1				
	特別活動の理論と方法	3前	2				1					1
	生徒指導論(養護)	3前	2				1					
	生徒指導論(道徳指導を含む)(保健)	3後	2				1					
	保健科教育法Ⅰ	3前	2								1	
	保健科教育法Ⅱ	3後	2								1	
保健科教育法Ⅲ	4前	2								1		
保健科教育法Ⅳ	4後	2								1		
養護実習事前事後指導	3後	1					1					
養護実習	3後	4					1					
教育実習事前事後指導(保健)	4前	1							1			
教育実習(保健)	4前	4							1			
教職実践演習(養護)	4後	2					1				1	
教職実践演習(保健)	4後	2								1	1	
ゼミナールⅠ	3前	2				5	3	1	2			
ゼミナールⅡ	3後	2				5	3	1	2			
ゼミナールⅢ	4前	2				5	3	1	2			
ゼミナールⅣ	4後	2				5	3	1	2			
合計(156科目)	-											
卒業要件及び履修方法												
<ul style="list-style-type: none"> ・共通専門教育科目から10単位以上取得すること。 ・幼児教育学専攻では専門教育科目(保育教育科目、幼児・保育教育科目)から52単位(必修18単位含む)以上取得すること。 ・養護教育学専攻では専門教育科目(養護・保健教育科目)から52単位以上取得すること。 ・演習から8単位取得すること。 ・すべてのカリキュラム(必修科目は除く)から28単位以上取得すること。 ○卒業必要単位数124単位												

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
養護・保健教育課目	発達心理学	1後	2						1			
	基礎看護学	1後	2						1			
	基礎看護学実習	1後	2						1			
	学校保健(学校安全を含む)	2後	2						1			
	学校看護学	2前	2						1			
	衛生学及び公衆衛生学(予防医学を含む)(新編)	3前	2						1			
	解剖学	2後	2									1
	生理学	3前	2							1		
	小児看護学(小児保健を含む)	2後	2									1
	学校看護学実習	2前	2							1		
	臨床看護実習事前事後指導	2後	1							1		
	基礎臨床看護実習	2後	1							1		
	地域臨床看護実習	2後	1							1		
	養護概説	3前	2							1		
	学校保健演習	3前	2							1		
	衛生学及び公衆衛生学(各論)	3後	2							1		
	微生物学及び免疫学	3後	2									1
	栄養学(食品学を含む)	3前	2							1		
	薬理概論	3後	2									1
	ヘルスカウンセリング	3前	2									1
	臨床心理学	3後	2							1		
	学校環境衛生実習	3前	2									1
	精神看護学	4前	2									1
	スポーツ外傷・障害論(救急処置を含む)	4後	2									1
	精神保健	4前	2							1		
	健康管理学	4後	2							1		
	教職概論	1後	2							1		
	教育原理(養護・保健)	1前	2									1
	教育と社会(養護・保健)	2前	2							1		
	教育心理学(養護・保健)	2前	2								1	
	道徳教育の理論と方法	2前	2									1
	教育方法と技術(養護・保健)	2前	2									2
	教育課程論	2後	2									1
	教育相談の理論と方法	2後	2							1		
	介護等体験(事前事後指導を含む)	2前	2							1		
	特別活動の理論と方法	3前	2									1
	生徒指導論(養護)	3前	2							1		
	生徒指導論(道徳指導を含む)(保健)	3後	2							1		
	保健科教育法Ⅰ	3前	2								1	
	保健科教育法Ⅱ	3後	2								1	
保健科教育法Ⅲ	4前	2								1		
保健科教育法Ⅳ	4後	2								1		
養護実習事前事後指導	3後	1							1			
養護実習	3後	4							1			
教育実習事前事後指導(保健)	4前	1								1		
教育実習(保健)	4前	4								1		
教職実践演習(養護)	4後	2								1		
教職実践演習(保健)	4後	2									1	
ゼミナールⅠ	3前	2							6	4	1	
ゼミナールⅡ	3後	2							6	4	1	
ゼミナールⅢ	4前	2							6	4	1	
ゼミナールⅣ	4後	2							6	4	1	
合計(156科目)	-											
卒業要件及び履修方法												
<ul style="list-style-type: none"> ・共通専門教育科目から10単位以上取得すること。 ・幼児教育学専攻では専門教育科目(保育教育科目、幼児・保育教育科目)から52単位(必修18単位含む)以上取得すること。 ・養護教育学専攻では専門教育科目(養護・保健教育科目)から52単位以上取得すること。 ・演習から8単位取得すること。 ・すべてのカリキュラム(必修科目は除く)から28単位以上取得すること。 ○卒業必要単位数124単位												

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
養護・保健教育課目	発達心理学	1後	2						1			
	基礎看護学	1後	2						1			
	基礎看護学実習	1後	2						1			
	学校保健(学校安全を含む)	2後	2				1					
	学校看護学	2前	2				1					
	衛生学及び公衆衛生学(予防医学を含む)(新編)	3前	2				1					
	解剖学	2後	2								1	
	生理学	3前	2				1					
	小児看護学(小児保健を含む)	2後	2								1	
	学校看護学実習	2前	2							1		
	臨床看護実習事前事後指導	2後	1							1		
	基礎臨床看護実習	2後	1							1		
	地域臨床看護実習	2後	1							1		
	養護概説	3前	2				1					
	学校保健演習	3前	2				1					
	衛生学及び公衆衛生学(各論)	3後	2				1					
	微生物学及び免疫学	3後	2								1	
	栄養学(食品学を含む)	3前	2				1					
	薬理概論	3後	2								1	
	ヘルスカウンセリング	3前	2								1	
	臨床心理学	3後	2							1		
	学校環境衛生実習	3前	2								1	
	精神看護学	4前	2								1	
	スポーツ外傷・障害論(救急処置を含む)	4後	2								1	
	精神保健	4前	2							1		
	健康管理学	4後	2				1					
	教職概論	1後	2				1					
	教育原理(養護・保健)	1前	2								1	
	教育と社会(養護・保健)	2前	2				1					
	教育心理学(養護・保健)	2前	2							1		
	道徳教育の理論と方法	2前	2								1	
	教育方法と技術(養護・保健)	2前	2								1	
	教育課程論	2後	2								1	
	教育相談の理論と方法	2後	2								1	
	介護等体験(事前事後指導を含む)	2前	2				1					
特別活動の理論と方法	3前	2				1						
生徒指導論(養護)	3前	2				1						
生徒指導論(道徳指導を含む)(保健)	3後	2				1						
保健科教育法Ⅰ	3前	2							1			
保健科教育法Ⅱ	3後	2							1			
保健科教育法Ⅲ	4前	2							1			
保健科教育法Ⅳ	4後	2							1			
養護実習事前事後指導	3後	1					1					
養護実習	3後	4					1					
教育実習事前事後指導(保健)	4前	1							1			
教育実習(保健)	4前	4							1			
教職実践演習(養護)	4後	2				1					1	
教職実践演習(保健)	4後	2					1				1	
ゼミナールⅠ	3前	2				5	3	1	2			
ゼミナールⅡ	3後	2				5	3	1	2			
ゼミナールⅢ	4前	2				5	3	1	2			
ゼミナールⅣ	4後	2				5	3	1	2			
合計(156科目)	-											
卒業要件及び履修方法												
<ul style="list-style-type: none"> ・共通専門教育科目から10単位以上取得すること。 ・幼児教育学専攻では専門教育科目(保育教育科目、幼児・保育教育科目)から52単位(必修18単位含む)以上取得すること。 ・養護教育学専攻では専門教育科目(養護・保健教育科目)から52単位以上取得すること。 ・演習から8単位取得すること。 ・すべてのカリキュラム(必修科目は除く)から28単位以上取得すること。 ○卒業必要単位数124単位												

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
養護・保健教育課目	発達心理学	1後	2						1			
	基礎看護学	1後	2							1		
	基礎看護学実習	1後	2							1		
	学校保健(学校安全を含む)	2後	2						1			
	学校看護学	2前	2						1			
	衛生学及び公衆衛生学(予防医学を含む)(新編)	3前	2						1			
	解剖学	2後	2									1
	生理学	3前	2						1			
	小児看護学(小児保健を含む)	2後	2									1
	学校看護学実習	2前	2								1	
	臨床看護実習事前事後指導	2後	1								1	
	基礎臨床看護実習	2後	1								1	
	地域臨床看護実習	2後	1								1	
	養護概説	3前	2						1			
	学校保健演習	3前	2						1			
	衛生学及び公衆衛生学(各論)	3後	2						1			
	微生物学及び免疫学	3後	2									1
	栄養学(食品学を含む)	3前	2						1			
	薬理概論	3後	2									1
	ヘルスカウンセリング	3前	2									1
	臨床心理学	3後	2							1		
	学校環境衛生実習	3前	2									1
	精神看護学	4前	2									1
	スポーツ外傷・障害論(救急処置を含む)	4後	2									1
	精神保健	4前	2							1		
	健康管理学	4後	2						1			
	教職概論	1後	2						1			
	教育原理(養護・保健)	1前	2									1
	教育と社会(養護・保健)	2前	2						1			
	教育心理学(養護・保健)	2前	2							1		
	道徳教育の理論と方法	2前	2									1
	教育方法と技術(養護・保健)	2前	2									2
	教育課程論	2後	2									1
	教育相談の理論と方法	2後	2						1			
	介護等体験(事前事後指導を含む)	2前	2							1		
特別活動の理論と方法	3前	2									1	
生徒指導論(養護)	3前	2						1				
生徒指導論(道徳指導を含む)(保健)	3後	2						1				
保健科教育法Ⅰ	3前	2								1		
保健科教育法Ⅱ	3後	2								1		
保健科教育法Ⅲ	4前	2								1		
保健科教育法Ⅳ	4後	2								1		
養護実習事前事後指導	3後	1							1			
養護実習	3後	4							1			
教育実習事前事後指導(保健)	4前	1								1		
教育実習(保健)	4前	4								1		
教職実践演習(養護)	4後	2						1				
教職実践演習(保健)	4後	2								1		
ゼミナールⅠ	3前	2				5	3	4	1	1		
ゼミナールⅡ	3後	2				5	3	4	1	1		
ゼミナールⅢ	4前	2				5	3	4	1	1		
ゼミナールⅣ	4後	2				5	3	4	1	1		
合計(156科目)	-											
卒業要件及び履修方法												
<ul style="list-style-type: none"> ・共通専門教育科目から10単位以上取得すること。 ・幼児教育学専攻では専門教育科目(保育教育科目、幼児・保育教育科目)から52単位(必修18単位含む)以上取得すること。 ・養護教育学専攻では専門教育科目(養護・保健教育科目)から52単位以上取得すること。 ・演習から8単位取得すること。 ・すべてのカリキュラム(必修科目は除く)から28単位以上取得すること。 ○卒業必要単位数124単位												

- (注) ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 ・ 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。
 その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。
 ・ 1ページ目には認可時又は届出時と平成30年度の表を記入してください。
 ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。
 (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) 一②授業科目表に関する変更内容

【平成29年度】

特になし。

【平成30年度】

・ 助教から准教授に昇任した理由により、「保育の心理学Ⅰ」「発達心理学」「教育心理学(養護・保健)」「保育の心理学Ⅱ」「精神保健」「臨床心理学」の専任教員等配置を「准教授0」から「准教授1」に変更。
 ・ 助教から准教授に昇任した理由により、「ゼミナールⅠ」「ゼミナールⅡ」「ゼミナールⅢ」「ゼミナールⅣ」の専任教員等配置を「准教授3」から「准教授4」に変更。
 ・ 助教から准教授に昇任した理由により、「基礎ゼミナールⅢ」「基礎ゼミナールⅣ」の専任教員等配置を「准教授1」から「准教授2」に変更。
 ・ 専任教員退職の理由により、「鈴鹿学」の専任教員等配置を「助教0」から「助教1」に変更。
 ・ 専任教員退職の理由により、「教育と社会(幼稚園)」「特別活動の理論と方法」「こどもの運動遊びⅠ」の専任教員等配置を「兼0」から「兼1」に変更。

【令和元年度】

・ 助教から准教授に昇任した理由により、専任教員等の配置人数を変更。
 ・ 准教授から教授に昇任した理由により、専任教員等の配置人数を変更。
 ・ 兼任補充教員等の採用が確定した理由により、兼任・兼担人数を変更。

- (注) ・ 変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を簡条書きで記入してください。
 変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

<こども教育学部 こども教育学科>

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
23 科目	133 科目	科目	156 科目	科目	科目	科目	科目	変更なし
				[]	[]	[]	[]	

<こども教育学部 こども教育学科 幼児教育学専攻>

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
23 科目	85 科目	科目	108 科目	科目	科目	科目	科目	変更なし
				[]	[]	[]	[]	

<こども教育学部 こども教育学科 養護教育学専攻>

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
14 科目	57 科目	科目	105 科目	科目	科目	科目	科目	変更なし
				[]	[]	[]	[]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例: 1科目減の場合: △1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	マーケティング論	2	1前	一般	選択	履修者が少数のため、隔年開講で対応する
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

・ 未開講科目 1 科目については、履修者が少数であり、時間割編成上、隔年開講とするが、配当年次が1年生以上あるため、学生の履修上に問題ないとする。なお、学生への周知は、オリエンテーションにおいて説明し、周知している。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目 (3) と廃止科目 (4) の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計 (A)}} = \frac{1}{156} = \boxed{0.64} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	鈴鹿大学 鈴鹿大学短期大学部 (必要面積1,800㎡) と共有		
	校舎敷地	㎡	6,064.51㎡	㎡	6,064.51㎡			
	運動場用地	㎡	17,175.00㎡	㎡	17,175.00㎡			
	小 計	㎡	23,239.51㎡	㎡	23,239.51㎡			
	そ の 他	㎡	59,218.45㎡	㎡	59,218.45㎡			
	合 計	㎡	82,457.96㎡	㎡	82,457.96㎡			
(2) 校 舎	専 用	981.33㎡	8,529.83㎡	2,108.05㎡	11,619.21㎡	鈴鹿大学 鈴鹿大学短期大学部 (必要面積3,250㎡) と共有		
	(1,084.02㎡)	(6,912.54㎡)	(0㎡)	(7,996.56㎡)				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学・短期大学部全体		
	8室	9室	17室	3室 (補助職員 1人)	2室 (補助職員 0人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数			大学・短期大学部全体 55室		
	こども教育学部 こども教育学科		16 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	大学・短期大学部全体 図書・設備充実のため (30) 図書・設備充実のため (29)
	こども教育学部	77,296 [1,684] (77,884 [1,687]) (77,060 [1,684]) (77,296 [1,684])	338 [11] (782 [144]) (312 [6]) (338 [11])	0 [0]	488 (540) (488)	1,332 (1,332)	31 (31)	
	計	77,296 [1,684] (77,884 [1,687]) (77,060 [1,684]) (77,296 [1,684])	338 [11] (782 [144]) (312 [6]) (338 [11])	0 [0]	488 (540) (488)	1,332 (1,332)	31 (31)	
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数			
	1,331.44㎡		230		16.2万冊			
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
	1,745.00㎡		グ ラ ウ ン ド 1 面 テ ニ ス コ ー ト 3 面					
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	
		教員1人当り研究費等	120千円	120千円	図書購入費	1,000千円	1,000千円	千円
	共 同 研 究 費 等	千円	千円	設備購入費	113,000千円	千円	千円	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		1,310千円	1,060千円	1,060千円	1,060千円	千円	千円	
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、資産運用収入、入学検定料等						

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称		鈴鹿大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の学科のみ)	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	年度			
大学院	2	10	—	20	—	1.05	—	平成10	—	
国際学研究所	2	10	—	20	修士 (国際学)	1.05	—	平成10	三重県鈴鹿市郡山町 字西高山663番222	
国際人間科学部	4	—	—	—	—	—	—	平成6	—	
国際学科	4	—	—	—	学士 (国際学)	—	—	平成6	三重県鈴鹿市郡山町 字西高山663番222	平成27年度 学生募集停止
国際人間科学部(新設)	4	—	—	—	—	—	—	平成27	—	
国際学科	4	—	—	—	学士 (国際学)	—	—	平成27	三重県鈴鹿市郡山町 字西高山663番222	※平成29年度 学生募集停止
こども教育学部	4	50	3年次 5	210	—	0.38	平成31	平成29	—	
こども教育学科	4	50	3年次 5	210	学士 (教育学)	0.38	平成31	平成29	三重県鈴鹿市郡山町 字西高山663番222	定員変更(△30)
幼児教育学専攻	4	25	3年次 3	106	学士 (教育学)	0.37	平成31	平成29	同上	定員変更(△15)
養護教育学専攻	4	25	3年次 2	104	学士 (教育学)	0.39	平成31	平成29	同上	定員変更(△15)
国際地域学部	4	120	3年次 10	500	—	1.20	—	平成31	—	
国際地域学科	4	120	3年次 10	500	修士 (国際学)	1.20	—	平成31	三重県鈴鹿市郡山町 字西高山663番222	
大学全体	—	180	3年次 15	730	—	0.95	—	—	—	
大学の名称		鈴鹿大学短期大学部								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の学科のみ)	開年度	所在地	
	年	人	年次	人		倍	年度			
生活コミュニケーション学科	2	90	—	180	—	0.81	—	昭和41	三重県鈴鹿市郡山町 字西高山663番222	
食物栄養学専攻	2	40	—	80	短期大学士 (生活学)	0.95	—	昭和42	同上	
こども学専攻	2	50	—	100	短期大学士 (生活学)	0.70	—	平成17	同上	
大学全体	—	90	—	180	—	0.81	—	—	—	

(注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。

(専攻科及び別科を除く)。

- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
- ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
- ・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き(平成31年度改訂版)」と同じです。
- ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<こども教育学部 こども教育学科>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別		氏名 (年齢)	職名	担当授業科目名	【平成29年度】		【平成30年度】		【令和元年度】	
専任・兼任・兼任の別		氏名 (年齢)	職名	担当授業科目名	氏名 (年齢)		氏名 (年齢)		氏名 (年齢)	
専任・兼任・兼任の別		氏名 (年齢)	職名	担当授業科目名	氏名 (年齢)		氏名 (年齢)		氏名 (年齢)	
専	教授	川又 俊則 (50) <平成29年4月> 修士(文学)	教授	児童教育論 社会学 教職概論 宗教学 データ分析法 教育社会学 ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ ゼミナールⅢ ゼミナールⅣ 児童保育方法論 児童保育実習事前事後指導 児童保育実習	川又 俊則 (51) <平成29年4月> 修士(文学)	川又 俊則 (52) <平成29年4月> 修士(文学)	川又 俊則 (53) <平成29年4月> 修士(文学)	川又 俊則 (54) <平成29年4月> 修士(文学)	川又 俊則 (55) <平成29年4月> 修士(文学)	川又 俊則 (56) <平成29年4月> 修士(文学)
専	教授	藤岡(渡辺) 恭子 (56) <平成29年4月> 博士(人間発達学)	教授	障害学 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 教育と社会(養護・保健) 基礎ゼミナールⅢ 基礎ゼミナールⅣ 特別活動の理論と方法 生徒指導論(進路指導を含む)(保健) 生徒指導論(養護) ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ ゼミナールⅢ ゼミナールⅣ 教育と社会(幼稚園)	藤岡(渡辺) 恭子 (57) <平成29年4月> 博士(人間発達学)	藤岡(渡辺) 恭子 (58) <平成29年4月> 博士(人間発達学)	藤岡(渡辺) 恭子 (59) <平成29年4月> 博士(人間発達学)	藤岡(渡辺) 恭子 (60) <平成29年4月> 博士(人間発達学)	藤岡(渡辺) 恭子 (61) <平成29年4月> 博士(人間発達学)	藤岡(渡辺) 恭子 (62) <平成29年4月> 博士(人間発達学)
専	教授	久保 さつき (63) <平成29年4月> 修士(農学)	教授	基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ キャリアデザインⅠ キャリアデザインⅡ インターンシップ 基礎ゼミナールⅢ 基礎ゼミナールⅣ こどものかがく 栄養学(食品学を含む) こどもの食と栄養 キャリアデザインⅢ キャリアデザインⅣ	久保 さつき (64) <平成29年4月> 修士(農学)	久保 さつき (65) <平成29年4月> 修士(農学)	久保 さつき (66) <平成29年4月> 修士(農学)	久保 さつき (67) <平成29年4月> 修士(農学)	久保 さつき (68) <平成29年4月> 修士(農学)	久保 さつき (69) <平成29年4月> 修士(農学)
専	教授	翠川 薫 (62) <平成31年4月> 博士(医学)	教授	こどもの保健Ⅰ こどもの保健Ⅱ ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ 衛生学及び公衆衛生学(予防医学を含む)(総論) 衛生学及び公衆衛生学(各論) ゼミナールⅢ ゼミナールⅣ 健康管理学	翠川 薫 (63) <平成31年4月> 博士(医学)	翠川 薫 (64) <平成31年4月> 博士(医学)	翠川 薫 (65) <平成31年4月> 博士(医学)	翠川 薫 (66) <平成31年4月> 博士(医学)	翠川 薫 (67) <平成31年4月> 博士(医学)	翠川 薫 (68) <平成31年4月> 博士(医学)
専	教授	田口 鉄久 (68) <平成29年4月> 修士(児童学)	教授	幼児教育学論 保育内容(人間関係) 保育内容(言葉) ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ ゼミナールⅢ ゼミナールⅣ 保育内容総論 教職・保育実践演習 保育原理 保育指導法	田口 鉄久 (69) <平成29年4月> 修士(児童学)	田口 鉄久 (70) <平成29年4月> 修士(児童学)	田口 鉄久 (71) <平成29年4月> 修士(児童学)	田口 鉄久 (72) <平成29年4月> 修士(児童学)	田口 鉄久 (73) <平成29年4月> 修士(児童学)	田口 鉄久 (74) <平成29年4月> 修士(児童学)
専	教授	坪井 守 (64) <平成29年4月>	教授	保育と社会(幼稚園) 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 基礎ゼミナールⅢ 基礎ゼミナールⅣ 幼稚園教育実習 幼稚園教育実習事前事後指導 こどもとこども キャリアデザインⅠ キャリアデザインⅡ キャリアデザインⅢ キャリアデザインⅣ 教職・保育実践演習	坪井 守 (65) <平成29年4月>	坪井 守 (66) <平成29年4月>	坪井 守 (67) <平成29年4月>	坪井 守 (68) <平成29年4月>	坪井 守 (69) <平成29年4月>	坪井 守 (70) <平成29年4月>
専	教授	山路 克文 (65) <平成30年4月> 修士(社会学)	教授	社会福祉概論 保育実習指導Ⅰ(施設) 保育実習Ⅰ(施設) 相談援助 地域福祉論 ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ ゼミナールⅢ ゼミナールⅣ	山路 克文 (66) <平成30年4月> 修士(社会学)	山路 克文 (67) <平成30年4月> 修士(社会学)	山路 克文 (68) <平成30年4月> 修士(社会学)	山路 克文 (69) <平成30年4月> 修士(社会学)	山路 克文 (70) <平成30年4月> 修士(社会学)	山路 克文 (71) <平成30年4月> 修士(社会学)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 担当授業科目名	
		川又 俊則 (50)			川又 俊則 (51)			川又 俊則 (52)			川又 俊則 (53)	
専	准教授	大野 泰子 (62) <平成29年4月> 修士(教育学) 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 介護等体験(事前事後指導を含む) 学校保健(学校安全を含む) 学校保健演習 養護概説 ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ 養護実習 養護実習事前事後指導 ゼミナールⅢ ゼミナールⅣ 教職実践演習(養護) 学校看護学	専	准教授	大野 泰子 (62) <平成29年4月> 修士(教育学) 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 介護等体験(事前事後指導を含む) 学校保健(学校安全を含む) 学校保健演習 養護概説 ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ 養護実習 養護実習事前事後指導 ゼミナールⅢ ゼミナールⅣ 教職実践演習(養護) 学校看護学	専	准教授	大野 泰子 (63) <平成29年4月> 修士(教育学) 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 介護等体験(事前事後指導を含む) 学校保健(学校安全を含む) 学校保健演習 養護概説 ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ 養護実習 養護実習事前事後指導 ゼミナールⅢ ゼミナールⅣ 教職実践演習(養護) 学校看護学	専	教授	大野 泰子 (64) <平成29年4月> 修士(教育学) 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 介護等体験(事前事後指導を含む) 学校保健(学校安全を含む) 学校保健演習 養護概説 ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ 養護実習 養護実習事前事後指導 ゼミナールⅢ ゼミナールⅣ 教職実践演習(養護) 学校看護学	
専	准教授	杉山 佳菜子 (35) <平成29年4月> 修士(文学) こども学概論 教育心理学(幼稚園) ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ ゼミナールⅢ ゼミナールⅣ 家庭・子育て支援論 こどもの理解 こどもと保育カウンセリング	専	准教授	杉山 佳菜子 (35) <平成29年4月> 修士(文学) こども学概論 教育心理学(幼稚園) ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ ゼミナールⅢ ゼミナールⅣ 家庭・子育て支援論 こどもの理解 こどもと保育カウンセリング	専	准教授	杉山 佳菜子 (36) <平成29年4月> 修士(文学) こども学概論 教育心理学(幼稚園) ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ ゼミナールⅢ ゼミナールⅣ 家庭・子育て支援論 こどもの理解 こどもと保育カウンセリング 紳高学	専	准教授	杉山 佳菜子 (37) <平成29年4月> 修士(文学) こども学概論 ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ ゼミナールⅢ ゼミナールⅣ 家庭・子育て支援論 こどもの理解 こどもと保育カウンセリング 保育の心臓学Ⅰ 保育の心臓学Ⅱ	
専	准教授	上田 慎二 (48) <平成29年4月> 修士(芸術) 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ キャリアデザインⅡ こども造形の基礎Ⅰ こども造形の基礎Ⅱ 保育内容(表現Ⅱ造形) ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ 保育表現技術演習Ⅱ(造形) 保育表現技術演習Ⅲ(こどもの文化) ゼミナールⅢ ゼミナールⅣ	専	准教授	上田 慎二 (48) <平成29年4月> 修士(芸術) 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ キャリアデザインⅡ こども造形の基礎Ⅰ こども造形の基礎Ⅱ 保育内容(表現Ⅱ造形) ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ 保育表現技術演習Ⅱ(造形) 保育表現技術演習Ⅲ(こどもの文化) ゼミナールⅢ ゼミナールⅣ	専	准教授	上田 慎二 (49) <平成29年4月> 修士(芸術) 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ キャリアデザインⅡ こども造形の基礎Ⅰ こども造形の基礎Ⅱ 保育内容(表現Ⅱ造形) ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ 保育表現技術演習Ⅱ(造形) 保育表現技術演習Ⅲ(こどもの文化) ゼミナールⅢ ゼミナールⅣ				
									専	准教授	真下 賢一 (53) <平成31年4月> 修士(教育学) キャリアデザインⅡ こども造形の基礎Ⅰ こども造形の基礎Ⅱ ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ ゼミナールⅢ ゼミナールⅣ 専任補充予定	
									専	准教授	<令和元年10月> 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 保育内容(表現Ⅱ造形) 保育表現技術演習Ⅱ(造形) 保育表現技術演習Ⅲ(こどもの文化)	
専	准教授	榊原 尉津子 (49) <平成29年4月> 学士(体育学) 保育内容(健康) こどもの運動遊びⅠ こどもの運動遊びⅡ レクリエーション概論 レクリエーション活動援助法 レクリエーション実習 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 基礎ゼミナールⅢ 基礎ゼミナールⅣ 始業学	専	准教授	榊原 尉津子 (49) <平成29年4月> 学士(体育学) 保育内容(健康) こどもの運動遊びⅠ こどもの運動遊びⅡ レクリエーション概論 レクリエーション活動援助法 レクリエーション実習 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 基礎ゼミナールⅢ 基礎ゼミナールⅣ 始業学	兼任	准教授	榊原 尉津子 (50) <平成30年4月> 学士(体育学) こどもの運動遊びⅠ				
									専	准教授	専任補充予定 <平成30年10月> 保育内容(健康) こどもの運動遊びⅡ レクリエーション概論 レクリエーション活動援助法 レクリエーション実習 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 基礎ゼミナールⅢ 基礎ゼミナールⅣ	
									専	准教授	生島 嘉人 () <平成31年4月> 修士(心身健康学) 保育内容(健康) こどもの運動遊びⅠ こどもの運動遊びⅡ レクリエーション概論 レクリエーション活動援助法 レクリエーション実習 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 基礎ゼミナールⅢ 基礎ゼミナールⅣ 紳高学	
専	講師	森 慶恵 (53) <平成31年4月> 修士(教育学) 保健科教育法Ⅰ 保健科教育法Ⅱ 保健科教育法Ⅲ 保健科教育法Ⅳ ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ ゼミナールⅢ ゼミナールⅣ 教育実習(保健) 教育実習事前事後指導(保健) 教職実践演習(保健)	専	講師	森 慶恵 (51) <平成31年4月> 修士(教育学) 保健科教育法Ⅰ 保健科教育法Ⅱ 保健科教育法Ⅲ 保健科教育法Ⅳ ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ ゼミナールⅢ ゼミナールⅣ 教育実習(保健) 教育実習事前事後指導(保健) 教職実践演習(保健)	専	講師	森 慶恵 (52) <平成31年4月> 修士(教育学) 保健科教育法Ⅰ 保健科教育法Ⅱ 保健科教育法Ⅲ 保健科教育法Ⅳ ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ ゼミナールⅢ ゼミナールⅣ 教育実習(保健) 教育実習事前事後指導(保健) 教職実践演習(保健)	専	講師	森 慶恵 (53) <平成31年4月> 修士(教育学) 保健科教育法Ⅰ 保健科教育法Ⅱ 保健科教育法Ⅲ 保健科教育法Ⅳ ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ ゼミナールⅢ ゼミナールⅣ 教育実習(保健) 教育実習事前事後指導(保健) 教職実践演習(保健)	

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
		川又 俊則 (50)
専 助教		中山 真 (32) <平成29年4月> 修士(臨床人間学)
		保育の心理学Ⅰ 発達心理学 教育心理学(養護・保健) 保育の心理学Ⅱ 基礎ゼミナールⅢ 基礎ゼミナールⅣ 臨床心理学 ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ ゼミナールⅢ ゼミナールⅣ 精神保健
専 助教		小川 真由子 (40) <平成29年4月> 修士(看護学)
		基礎看護学 基礎看護学実習 学校看護学実習 基礎ゼミナールⅢ 基礎ゼミナールⅣ 基礎臨床看護実習 地域臨床看護実習 臨床看護実習事前事後指導 ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ ゼミナールⅢ ゼミナールⅣ
専 助教		大久保 友加里 (30) <平成29年4月> 修士(教育学)
		こどもと音楽Ⅰ こどもと音楽Ⅱ キョウアデザインⅠ 児童文化と表現 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 基礎ゼミナールⅢ 基礎ゼミナールⅣ 保育実習指導Ⅱ又はⅢ(保育所又は施設) 保育実習Ⅱ又はⅢ(保育所又は施設)
兼任 教授		アトコト ジョウビエール (54) <平成29年4月> 修士(美術)
兼任 教授		松倉 信幸 (58) <平成29年4月> 修士(文学)
兼任 教授		周 国龍 (61) <平成30年4月> 修士(美術)
兼任 教授		齋藤 千恵 (53) <平成29年4月> 博士(哲学)
兼任 教授		中野 潤三 (63) <平成30年4月> 修士(法学)
兼任 教授		細井 和彦 (53) <平成30年4月> 博士(文学)
兼任 教授		富田 寿代 (61) <平成30年4月> 博士(工学)
兼任 教授		仲(江口) 律子 (49) <平成29年4月> 修士(教育学)
兼任 教授		今光 俊介 (48) <平成29年4月> 修士(経営学)
兼任 准教授		田中 利佳 (55) <平成29年4月> 学士(体育学)
兼任 講師		アラワケ ジョーロウ 健一 (43) <平成30年4月> 修士(科学教育学)
兼任 教授		高井 和男 (59) <平成30年4月> 修士(教育学)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
		川又 俊則 (51)
専 助教		中山 真 (32) <平成29年4月> 修士(臨床人間学)
		保育の心理学Ⅰ 発達心理学 教育心理学(養護・保健) 保育の心理学Ⅱ 基礎ゼミナールⅢ 基礎ゼミナールⅣ 臨床心理学 ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ ゼミナールⅢ ゼミナールⅣ 精神保健
専 助教		小川 真由子 (40) <平成29年4月> 修士(看護学)
		基礎看護学 基礎看護学実習 学校看護学実習 基礎ゼミナールⅢ 基礎ゼミナールⅣ 基礎臨床看護実習 地域臨床看護実習 臨床看護実習事前事後指導 ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ ゼミナールⅢ ゼミナールⅣ
専 助教		大久保 友加里 (30) <平成29年4月> 修士(教育学)
		こどもと音楽Ⅰ こどもと音楽Ⅱ キョウアデザインⅠ 児童文化と表現 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 基礎ゼミナールⅢ 基礎ゼミナールⅣ 保育実習指導Ⅱ又はⅢ(保育所又は施設) 保育実習Ⅱ又はⅢ(保育所又は施設)
兼任 教授		アトコト ジョウビエール (54) <平成29年4月> 修士(美術)
兼任 教授		松倉 信幸 (58) <平成29年4月> 修士(文学)
兼任 教授		周 国龍 (61) <平成30年4月> 修士(美術)
兼任 教授		齋藤 千恵 (53) <平成29年4月> 博士(哲学)
兼任 教授		中野 潤三 (62) <平成30年4月> 修士(法学)
兼任 教授		細井 和彦 (52) <平成30年4月> 博士(文学)
兼任 教授		富田 寿代 (60) <平成30年4月> 博士(工学)
兼任 教授		仲(江口) 律子 (49) <平成29年4月> 修士(教育学)
兼任 教授		今光 俊介 (48) <平成29年4月> 修士(経営学)
兼任 准教授		田中 利佳 (55) <平成29年4月> 学士(体育学)
兼任 講師		アラワケ ジョーロウ 健一 (42) <平成30年4月> 修士(科学教育学)
兼任 教授		高井 和男 (58) <平成30年4月> 修士(教育学)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
		川又 俊則 (52)
専 准教授		中山 真 (33) <平成29年4月> 修士(臨床人間学)
		保育の心理学Ⅰ 発達心理学 教育心理学(養護・保健) 保育の心理学Ⅱ 基礎ゼミナールⅢ 基礎ゼミナールⅣ 臨床心理学 ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ ゼミナールⅢ ゼミナールⅣ 精神保健
専 助教		小川 真由子 (41) <平成29年4月> 修士(看護学)
		基礎看護学 基礎看護学実習 学校看護学実習 基礎ゼミナールⅢ 基礎ゼミナールⅣ 基礎臨床看護実習 地域臨床看護実習 臨床看護実習事前事後指導 ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ ゼミナールⅢ ゼミナールⅣ 給食学
専 助教		大久保 友加里 (31) <平成29年4月> 修士(教育学)
		こどもと音楽Ⅰ こどもと音楽Ⅱ キョウアデザインⅠ 児童文化と表現 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 基礎ゼミナールⅢ 基礎ゼミナールⅣ 保育実習指導Ⅱ又はⅢ(保育所又は施設) 保育実習Ⅱ又はⅢ(保育所又は施設)
兼任 教授		アトコト ジョウビエール (52) <平成29年4月> 修士(美術)
兼任 教授		松倉 信幸 (59) <平成29年4月> 修士(文学)
兼任 教授		周 国龍 (63) <平成30年4月> 修士(美術)
兼任 教授		中野 潤三 (63) <平成30年4月> 修士(法学)
兼任 教授		細井 和彦 (53) <平成30年4月> 博士(文学)
兼任 教授		富田 寿代 (61) <平成30年4月> 博士(工学)
兼任 教授		仲(江口) 律子 (49) <平成29年4月> 修士(教育学)
兼任 教授		今光 俊介 (49) <平成29年4月> 修士(経営学)
兼任 准教授		田中 利佳 (56) <平成29年4月> 学士(体育学)
兼任 講師		アラワケ ジョーロウ 健一 (43) <平成30年4月> 修士(科学教育学)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
		川又 俊則 (53)
専 准教授		齋藤 信 (44) <平成31年4月> 博士(心理学)
		発達心理学 教育心理学(養護・保健) 教育心理学(給付画) 臨床心理学 精神保健 基礎ゼミナールⅢ 基礎ゼミナールⅣ ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ ゼミナールⅢ ゼミナールⅣ
専 助教		小川 真由子 (42) <平成29年4月> 修士(看護学)
		基礎看護学 基礎看護学実習 学校看護学実習 基礎ゼミナールⅢ 基礎ゼミナールⅣ 基礎臨床看護実習 地域臨床看護実習 臨床看護実習事前事後指導 ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ ゼミナールⅢ ゼミナールⅣ 給食学
専 助教		大久保 友加里 (32) <平成29年4月> 修士(教育学)
		こどもと音楽Ⅰ こどもと音楽Ⅱ キョウアデザインⅠ 児童文化と表現 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 基礎ゼミナールⅢ 基礎ゼミナールⅣ 保育実習指導Ⅱ又はⅢ(保育所又は施設) 保育実習Ⅱ又はⅢ(保育所又は施設)
兼任 教授		アトコト ジョウビエール (56) <平成29年4月> 修士(美術)
兼任 教授		松倉 信幸 (60) <平成29年4月> 修士(文学)
兼任 教授		周 国龍 (63) <平成30年4月> 修士(美術)
兼任 教授		中野 潤三 (64) <平成30年4月> 修士(法学)
兼任 教授		細井 和彦 (54) <平成30年4月> 博士(文学)
兼任 教授		富田 寿代 (62) <平成30年4月> 博士(工学)
兼任 教授		仲(江口) 律子 (49) <平成29年4月> 修士(教育学)
兼任 教授		今光 俊介 (50) <平成29年4月> 修士(経営学)
兼任 教授		田中 利佳 (57) <平成29年4月> 学士(体育学)
兼任 講師		アラワケ ジョーロウ 健一 (43) <平成30年4月> 修士(科学教育学)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
担当授業科目名		
		川又 俊則 (50)
兼任	准教授	長澤 貴 (49) <平成29年4月> 修士(教育学) 教育原理(幼稚園・保育) 教育原理(養護・保健) 人権論 教職実践演習(養護) 教職実践演習(保健) 教育方法と技術(養護・保健) 教育方法と技術(幼稚園)
兼任	准教授	櫻井 秀樹 (46) <平成29年4月> 修士(農学) 生物学 解剖学 学校環境衛生実習 微生物学及び免疫学
兼任	准教授	永石 喜代子 (70) <平成32年4月> 学士(社会学) 精神看護学
兼任	准教授	竹中 浩 (70) <平成30年4月> 学士(文学) 幼児英語指導法
兼任	講師	中谷 恵子 (62) <平成29年4月> 学士(学術) 多文化理解
兼任	講師	木村 有里 (40) <平成29年4月> 修士(音楽療法) こころの癒しと音楽 科学と芸術の間(音楽史)
兼任	講師	陶山 宗幸 (57) <平成29年4月> 修士(法学) 日本国憲法
兼任	講師	小島 佳子 (66) <平成30年4月> 高卒 乳児の保育 障がい児の支援 こどもの保健演習
兼任	講師	強力 さとみ (63) <平成31年4月> 修士(社会福祉学) ヘルスカウンセリング
兼任	講師	杉本 陽子 (67) <平成30年4月> 修士(学術) 小児看護学(小児保健学を含む)
兼任	講師	飯田 幸雄 (60) <平成30年4月> 学士(日本文学) 特別支援教育概論
兼任	講師	林 浩司 (43) <平成31年4月> 修士(薬学) 薬理概論
兼任	講師	榊原 博美 (56) <平成30年4月> 修士(教育学) 道徳教育の理論と方法
兼任	講師	須永 進 (66) <平成31年4月> 修士(文学) 教育・保育課程論
兼任	講師	小孫 康平 (65) <平成30年4月> 博士(学術) 教育方法と技術(養護・保健) 教育方法と技術(幼稚園)
兼任	講師	毛利 隆宏 (65) <平成30年4月> 修士(農学) 教育課程論
兼任	講師	大金 朱音 (54) <平成32年4月> 博士(学術) スポーツ外傷・障害(特別支援教育を含む)
兼任	講師	福永 峰子 (57) <平成29年4月> 短期大学士 自然科学基礎
兼任	講師	神谷 勇毅 (37) <平成29年4月> 博士(経済情報) 情報処理I 情報処理II 情報処理論 生活統計 数理工学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
担当授業科目名		
		川又 俊則 (51)
兼任	准教授	長澤 貴 (49) <平成29年4月> 修士(教育学) 教育原理(幼稚園・保育) 教育原理(養護・保健) 人権論 教職実践演習(養護) 教職実践演習(保健) 教育方法と技術(養護・保健) 教育方法と技術(幼稚園)
兼任	准教授	櫻井 秀樹 (46) <平成29年4月> 修士(農学) 生物学 解剖学 学校環境衛生実習 微生物学及び免疫学
兼任	准教授	永石 喜代子 (67) <平成32年4月> 学士(社会学) 精神看護学
兼任	准教授	竹中 浩 (69) <平成30年4月> 学士(文学) 幼児英語指導法
兼任	講師	中谷 恵子 (63) <平成29年4月> 学士(学術) 多文化理解
兼任	講師	木村 有里 (40) <平成29年4月> 修士(音楽療法) こころの癒しと音楽 科学と芸術の間(音楽史)
兼任	講師	陶山 宗幸 (58) <平成29年4月> 修士(法学) 日本国憲法
兼任	講師	小島 佳子 (65) <平成30年4月> 高卒 乳児の保育 障がい児の支援 こどもの保健演習
兼任	講師	強力 さとみ (61) <平成31年4月> 修士(社会福祉学) ヘルスカウンセリング
兼任	講師	杉本 陽子 (66) <平成30年4月> 修士(学術) 小児看護学(小児保健学を含む)
兼任	講師	飯田 幸雄 (59) <平成30年4月> 学士(日本文学) 特別支援教育概論
兼任	講師	林 浩司 (41) <平成31年4月> 修士(薬学) 薬理概論
兼任	講師	榊原 博美 (55) <平成30年4月> 修士(教育学) 道徳教育の理論と方法
兼任	講師	須永 進 (65) <平成31年4月> 修士(文学) 教育・保育課程論
兼任	講師	小孫 康平 (64) <平成30年4月> 博士(学術) 教育方法と技術(養護・保健) 教育方法と技術(幼稚園)
兼任	講師	毛利 隆宏 (64) <平成30年4月> 修士(農学) 教育課程論
兼任	講師	大金 朱音 (51) <平成32年4月> 博士(学術) スポーツ外傷・障害(特別支援教育を含む)
兼任	講師	福永 峰子 (58) <平成29年4月> 短期大学士 自然科学基礎
兼任	講師	神谷 勇毅 (37) <平成29年4月> 博士(経済情報) 情報処理I 情報処理II 情報処理論 生活統計 数理工学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
担当授業科目名		
		川又 俊則 (52)
兼任	教授	長澤 貴 (50) <平成29年4月> 修士(教育学) 教育原理(幼稚園・保育) 教育原理(養護・保健) 人権論 教職実践演習(養護) 教職実践演習(保健) 教育方法と技術(養護・保健) 教育方法と技術(幼稚園)
兼任	准教授	櫻井 秀樹 (47) <平成29年4月> 修士(農学) 生物学 解剖学 学校環境衛生実習 微生物学及び免疫学
兼任	准教授	永石 喜代子 (68) <平成32年4月> 学士(社会学) 精神看護学
兼任	准教授	天野 剛至 (48) <平成30年4月> 修士(学術) 幼児英語指導法 文化人類学
兼任	講師	中谷 恵子 (63) <平成29年4月> 学士(学術) 多文化理解
兼任	講師	辻 有里 (41) <平成29年4月> 修士(音楽療法) こころの癒しと音楽 科学と芸術の間(音楽史)
兼任	講師	陶山 宗幸 (59) <平成29年4月> 修士(法学) 日本国憲法
兼任	講師	小島 佳子 (66) <平成30年4月> 高卒 乳児の保育 障がい児の支援 こどもの保健演習
兼任	講師	強力 さとみ (62) <平成31年4月> 修士(社会福祉学) ヘルスカウンセリング
兼任	講師	杉本 陽子 (67) <平成30年4月> 修士(学術) 小児看護学(小児保健学を含む)
兼任	講師	飯田 幸雄 (60) <平成30年4月> 学士(日本文学) 特別支援教育概論
兼任	講師	林 浩司 (42) <平成31年4月> 修士(薬学) 薬理概論
兼任	講師	榊原 博美 (58) <平成30年4月> 修士(教育学) 道徳教育の理論と方法
兼任	講師	須永 進 (66) <平成31年4月> 修士(文学) 教育・保育課程論
兼任	講師	小孫 康平 (65) <平成30年4月> 博士(学術) 教育方法と技術(養護・保健) 教育方法と技術(幼稚園)
兼任	講師	毛利 隆宏 (65) <平成30年4月> 修士(農学) 教育課程論
兼任	講師	大金 朱音 (52) <平成32年4月> 博士(学術) スポーツ外傷・障害(特別支援教育を含む)
兼任	講師	福永 峰子 (59) <平成29年4月> 短期大学士 自然科学基礎
兼任	講師	神谷 勇毅 (38) <平成29年4月> 博士(経済情報) 情報処理I 情報処理II 情報処理論 生活統計 数理工学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
担当授業科目名		
		川又 俊則 (53)
兼任	教授	長澤 貴 (51) <平成29年4月> 修士(教育学) 教育原理(幼稚園・保育) 教育原理(養護・保健) 人権論 教職実践演習(養護) 教職実践演習(保健) 教育方法と技術(養護・保健) 教育方法と技術(幼稚園)
兼任	准教授	櫻井 秀樹 (48) <平成29年4月> 修士(農学) 生物学 解剖学 学校環境衛生実習 微生物学及び免疫学
兼任	准教授	永石 喜代子 (69) <平成32年4月> 学士(社会学) 精神看護学
兼任	准教授	天野 剛至 (49) <平成30年4月> 修士(学術) 幼児英語指導法 文化人類学
兼任	講師	中谷 恵子 (63) <平成29年4月> 学士(学術) 多文化理解
兼任	講師	辻 有里 (42) <平成29年4月> 修士(音楽療法) こころの癒しと音楽 科学と芸術の間(音楽史)
兼任	講師	陶山 宗幸 (60) <平成29年4月> 修士(法学) 日本国憲法
兼任	講師	小島 佳子 (67) <平成30年4月> 高卒 乳児の保育 障がい児の支援 こどもの保健演習
兼任	講師	強力 さとみ (63) <平成31年4月> 修士(社会福祉学) ヘルスカウンセリング
兼任	講師	杉本 陽子 (68) <平成30年4月> 修士(学術) 小児看護学(小児保健学を含む)
兼任	講師	飯田 幸雄 (61) <平成30年4月> 学士(日本文学) 特別支援教育概論
兼任	講師	林 浩司 (43) <平成31年4月> 修士(薬学) 薬理概論
兼任	講師	榊原 博美 (57) <平成30年4月> 修士(教育学) 道徳教育の理論と方法
兼任	講師	須永 進 (67) <平成31年4月> 修士(文学) 教育・保育課程論
兼任	講師	小孫 康平 (66) <平成30年4月> 博士(学術) 教育方法と技術(養護・保健) 教育方法と技術(幼稚園)
兼任	講師	毛利 隆宏 (66) <平成30年4月> 修士(農学) 教育課程論
兼任	講師	大金 朱音 (53) <平成32年4月> 博士(学術) スポーツ外傷・障害(特別支援教育を含む)
兼任	講師	福永 峰子 (60) <平成29年4月> 短期大学士 自然科学基礎
兼任	講師	神谷 勇毅 (39) <平成29年4月> 博士(経済情報) 情報処理I 情報処理II 情報処理論 生活統計 数理工学
兼任	准教授	原 仁志 (48) <平成31年4月> 工学修士 情報処理論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>	担当授業科目名
		川又 俊則 (50)	
兼任	講師	大西 範和 (59) <平成31年4月> 博士(医学)	生理学
兼任	講師	清水 京子 (64) <平成30年4月> 教育学士	保育内容(環境)
		専任補充可 こどもと家庭の福祉 こどもと社会のソーシャルワークⅠ こどもと社会のソーシャルワークⅡ 保育実習指導Ⅰ(保育所) 保育実習(保育所) 保育内容(表現Ⅰ音楽) 保育表現技術演習Ⅰ(音楽) 保育実習指導Ⅱ又はⅢ(保育所又は施設) 保育実習Ⅱ又はⅢ(保育所又は施設)	
		兼任可 保育実習指導Ⅰ(保育所) 保育実習Ⅰ(保育所)	
		田島 孝次郎 (84) <平成30年4月> 芸術学士	専 教授 保育実習指導Ⅰ(保育所) 保育実習(保育所) 保育内容(表現Ⅰ音楽) 保育表現技術演習Ⅰ(音楽)
		兼任可 保育実習指導Ⅱ又はⅢ(保育所又は施設) 保育実習Ⅱ又はⅢ(保育所又は施設)	
		泉 正幸 (70) <平成30年4月> 教育学士	専 講師 こどもと家庭の福祉 こどもと社会のソーシャルワークⅠ こどもと社会のソーシャルワークⅡ
		石川 拓次 (42) <平成30年4月> 修士(スポーツ健康科学)	兼任 准教授 保育実習指導Ⅱ又はⅢ(保育所又は施設) 保育実習Ⅱ又はⅢ(保育所又は施設) スポーツと健康Ⅱ(講義)
		大日方 真史 (38) <平成30年4月> 博士(文学)	兼任 講師 教育と社会(幼稚園) 特別活動の理論と方法
		兼任補充 <平成31年4月>	兼任 講師 特別活動の理論と方法
		川又 俊則 (52)	
兼任	講師	大西 範和 (59) <平成31年4月> 博士(医学)	生理学
兼任	講師	清水 京子 (65) <平成30年4月> 教育学士	保育内容(環境)
		専任補充可 こどもと家庭の福祉 こどもと社会のソーシャルワークⅠ こどもと社会のソーシャルワークⅡ 保育実習指導Ⅰ(保育所) 保育実習(保育所) 保育内容(表現Ⅰ音楽) 保育表現技術演習Ⅰ(音楽) 保育実習指導Ⅱ又はⅢ(保育所又は施設) 保育実習Ⅱ又はⅢ(保育所又は施設)	
		兼任可 保育実習指導Ⅰ(保育所) 保育実習Ⅰ(保育所)	
		田島 孝次郎 (86) <平成30年4月> 芸術学士	専 教授 保育実習指導Ⅰ(保育所) 保育実習(保育所) 保育内容(表現Ⅰ音楽) 保育表現技術演習Ⅰ(音楽)
		兼任可 保育実習指導Ⅱ又はⅢ(保育所又は施設) 保育実習Ⅱ又はⅢ(保育所又は施設)	
		泉 正幸 (71) <平成30年4月> 教育学士	専 講師 こどもと家庭の福祉 こどもと社会のソーシャルワークⅠ こどもと社会のソーシャルワークⅡ
		石川 拓次 (43) <平成30年4月> 修士(スポーツ健康科学)	兼任 准教授 保育実習指導Ⅱ又はⅢ(保育所又は施設) 保育実習Ⅱ又はⅢ(保育所又は施設) スポーツと健康Ⅱ(講義)
		大日方 真史 (39) <平成30年4月> 博士(文学)	兼任 講師 教育と社会(幼稚園) 特別活動の理論と方法
		藤 公子 (82) <平成31年4月> 短期大学士	兼任 講師 特別活動の理論と方法
		みやざき 典崇 (42) <平成31年4月> 修士(芸術)	兼任 講師 特別活動の理論と方法

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
 - ・ その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る届出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の年齢**を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(み)、兼任)の兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成29年度】

・平成29年4月田島孝次郎教授就任。平成28年12月教員審査済み。

【平成30年度】

・平成30年4月泉正幸講師就任。平成29年6月教員審査済み。
・平成29年度末、藤岡恭子教授退職。平成30年4月仲律子教授就任。平成29年12月教員審査済み。
・平成29年度末、藤岡恭子教授退職。平成30年4月から小川真由子助教が1科目を担当。平成29年12月教員審査済み。
・平成29年12月教員審査判定「兼任補充可」2科目について、1科目は、大日方真史（兼任）講師に変更。1科目は、平成31年4月から兼任教員採用予定。
・平成29年度末、榑原尉津子准教授退職。後任未定であるが、平成30年10月から専任教員採用予定で公募中。
・平成30年4月中山真助教から准教授に昇任。平成29年12月教員審査済み。
・竹中浩（兼任）講師辞任により、天野剛至（兼任）准教授に変更。
・高井和男（兼任）教授辞任により、平成30年10月兼任講師採用予定。

【令和元年度】

・平成30年度末、中山真准教授退職。平成31年4月から齋藤信准教授就任。平成31年1月教員審査済み。
・平成30年度末、上田慎二准教授退職。平成31年4月から真下賢一准教授就任。平成31年1月教員審査済み。5科目保留のため令和元年6月の教員審査申請予定。
・平成31年4月大野泰子准教授から教授に昇任。平成31年1月教員審査済み。
・平成31年4月小川真由子助教から准教授に昇任。平成31年1月教員審査済み。
・齋藤千恵（兼任）教授辞任により、天野剛至（兼任）准教授に変更。
・中谷恵子（兼任）講師辞任により、棧教まゆみ（兼任）准教授に変更。
・神谷勇毅（兼任）講師1科目辞任により、原仁志（兼任）准教授に変更。
・平成31年4月、兼任補充の1科目、森公子（兼任）講師を採用。

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済み」と記入してください。
なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
10 名	5 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条列表第一、短期大学設置基準第二十二条列表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数【大学】

設置時の計画					現在（報告時）の状況				
教授	准教授	講師	助教	計（A）	教授	准教授	講師	助教	計（B）
7	4	2	3	16	9	5	2	1	17
(5)	(4)	(0)	(3)	(12)					
現在（報告時）の完成年度時の状況					現在（報告時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計（C）	教授	准教授	講師	助教	計（D）
9	5	2	1	17	9	5	2	1	17
[2]	[1]	[0]	[△2]	[1]	[2]	[1]	[0]	[△2]	[1]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、（ ）内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「**現在（報告時）の完成年度時の状況**」には、「**現在（報告時）の状況**」に記入した数字に、**教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告時（上記（B））の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記（C））の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65 歳	6 名	6 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 []内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況（C）}}{\text{設置時の計画（A）}} = \frac{17}{16} = \boxed{106.25} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況（B）}} = \frac{6}{17} = \boxed{35.29} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) -① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由				
						該当なし				
合計 (D)			後任補充状況の集計 (E)							
就任を辞退した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)	①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)				
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) -②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由							
1	教授	藤岡 恭子	必修	鈴鹿学	①	H30.3.31付け、本人からの願いにより辞任 (30)							
			必修	基礎ゼミナールⅠ	①								
			必修	基礎ゼミナールⅡ	①								
			必修	基礎ゼミナールⅢ	①								
			必修	基礎ゼミナールⅣ	①								
			必修	ゼミナールⅠ	①								
			必修	ゼミナールⅡ	①								
			必修	ゼミナールⅢ	①								
			必修	ゼミナールⅣ	①								
			選択	教育と社会 (養護・保健)	①								
			選択	特別活動の理論と方法	②								
2	准教授	榊原 尉津子	選択	保健師論 (産科助産を含む) (保健)	①	H30.3.31付け、本人からの願いにより辞任 (30)							
			選択	生徒指導論 (養護)	①								
			選択	教育と社会 (幼稚園)	②								
			選択	保育内容 (健康)	①								
			必修	こどもの運動遊びⅠ	①								
			選択	こどもの運動遊びⅡ	①								
			選択	レクリエーション概論	①								
			選択	レクリエーション活動援助法	①								
			選択	レクリエーション実習	①								
			必修	基礎ゼミナールⅠ	①								
			必修	基礎ゼミナールⅠ	①								
3	准教授	中山 真	必修	基礎ゼミナールⅠ	①	H31.3.31付け、本人からの願いにより辞任 (元)							
			必修	基礎ゼミナールⅠ	①								
			必修	基礎ゼミナールⅠ	①								
			必修	基礎ゼミナールⅠ	①								
			必修	基礎ゼミナールⅠ	①								
			必修	鈴鹿学	①								
			選択	保育の心理学Ⅰ	①								
			選択	発達心理学	①								
			選択	教育心理学 (養護・保健)	①								
			選択	保育の心理学Ⅱ	①								
			必修	基礎ゼミナールⅢ	①								
必修	基礎ゼミナールⅣ	①											
4	准教授	上田 慎二	選択	臨床心理学	①	H31.3.31付け、本人からの願いにより辞任 (元)							
			必修	ゼミナールⅠ	①								
			必修	ゼミナールⅡ	①								
			必修	ゼミナールⅢ	①								
			必修	ゼミナールⅣ	①								
			必修	精神保健	①								
			必修	基礎ゼミナールⅠ	①								
			必修	基礎ゼミナールⅡ	①								
			必修	キャリアデザインⅡ	①								
			必修	こども造形の基礎Ⅰ	①								
			選択	こども造形の基礎Ⅱ	①								
選択	保育内容 (表現Ⅱ造形)	①											
必修	ゼミナールⅠ	①											
必修	ゼミナールⅡ	①											
必修	ゼミナールⅢ	①											
必修	ゼミナールⅣ	①											
選択	保育表現技術演習Ⅱ (造形)	①											
選択	保育表現技術演習Ⅲ (こどもの文化)	①											
合計 (F)			後任補充状況の集計 (G)										
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)	①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)							
4	人	必修	29	科目	必修	29	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	20	科目	選択	18	科目	選択	2	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	49	科目	計	47	科目	計	2	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および()書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -③ 上記(3) -① ・ (3) -② の合計

合計(D)+(F)				後任補充状況の集計(E)+(G)							
辞任等した教員数		担当科目数の合計(a)+(b)+(c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)			
4	人	必修	29 科目	必修	29 科目	必修	0 科目	必修	0 科目		
		選択	20 科目	選択	18 科目	選択	2 科目	選択	0 科目		
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目		
		計	49 科目	計	47 科目	計	2 科目	計	0 科目		

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)-③合計(D)+(F)}{(2)-②設置時の計画(A)} = \frac{4}{16} = \boxed{25} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
合計				後任補充状況の集計					
辞任した教員数		担当科目数の合計(a)+(b)+(c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および()書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

1名の退職者については、他学部の同専門分野教員を所属変更し、後任教員として教員資格審査を受けた。一部の科目(2科目)で「不可」の判定となったが、「兼任補充可」に伴い、兼任教員を採用した。(30)
 1名の退職者については、教育に支障が出ないよう、平成30年10月付けで専任教員として採用予定である。(30)
 学生への周知方法については、オリエンテーションを通じて説明を行っている。(30)

2名の退職者については、教員資格審査を受けた教員を新規採用した。(元)
 学生への周知方法については、オリエンテーションを通じて教員紹介等により周知を図っている。(元)

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区分	附帯事項等	履行状況	今後の実施計画
設置時 (28年8月)	「理論と実践の一体的理解」を具体的に実現する方法については、教員間で十分な共通理解を図るとともに、学生にも十分伝わるよう努めること。	留意事項 シラバス作成や授業準備の会議意見交換で共通理解を図りFD活動でも徹底。教職教育センターでも情報共有。学生はガイダンスや授業で趣旨を十分説明し理解を得ている。(29)	履行済
設置時 (28年8月)	「キャリアデザインⅢ」及び「キャリアデザインⅣ」について、授業科目の概要ではキャリア形成力向上を目的とし、教員としての自覚や使命感の高揚を図るとあるが、シラバスは一般的な就職支援対策講座や公務員試験対策講座のようであるため、授業科目の概要に沿ったシラバスになるよう適切に改めること。	留意事項 「キャリアデザインⅢ」及び「キャリアデザインⅣ」の担当者が授業内容を再考した。就職支援対策講座のごとく見なされる内容ではなく、自らのキャリア形成力を向上させる内容に改めた。(29)	履行済
設置時 (28年8月)	教員の補充を必要とされた9授業科目については、科目開設時までに教員を充足すること。うち、専任教員の配置を必要とされた7授業科目については、確実に専任教員を配置すること。	留意事項 専任教員の設置を必要とされた7科目のうち、「保育表現技術演習Ⅰ(音楽)」および「保育内容(表現Ⅰ音楽)」の2科目は、教員審査の結果により、科目開設時までに専任教員の設置が決定している。「保育実習指導Ⅱ又はⅢ(保育所又は施設)」および「保育実習Ⅱ又はⅢ(保育所又は施設)」の2科目は、教員審査の申請を行った教員は、不可であったが、当該科目については兼任可となったため、科目開設時までに兼任教員を配置する。「こどもと社会のソーシャルワークⅠ」、「こどもと社会のソーシャルワークⅡ」および「こどもと家庭の福祉」の3科目は、平成30年度以降開設科目のため、平成29年度第2回目の教員審査に申請する。(29) 「こどもと社会のソーシャルワークⅠ」、「こどもと社会のソーシャルワークⅡ」および「こどもと家庭の福祉」の3科目は、平成29年6月の教員資格審査の結果を踏まえ、平成30年4月から専任教員を配置した。(30)	履行済

<p>設置時 (28年8月)</p>	<p>完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について着実に実施すること。</p>	<p>留意事項</p>	<p>60歳代の教員が着任しているが、支障なく新入生の授業を担当し、30歳代の若手教員へ良き助言をしている。日常的にFD活動等を展開し、一層の充実をはかる。(29)</p> <p>定年規程に定める退職年齢を超える専任教員と若手教員が教育研究の連携を図り、支障なく講義を履行している。また、1名の職位変更に伴う教員資格審査を受け、平成30年度に准教授への昇任が決定している。(30)</p>	<p>履行済</p>	<p>平成27年度末に立てた5年間の中期事業計画を遂行するなかで教育研究の連続性を踏まえた新規採用計画を準備すると同時に、適宜、昇格人事も検討する。(29)</p> <p>平成28年度からの中期事業計画(5カ年)を遂行する上で、完成年度以降の人事計画について再構築し、定年規程に基づき運用を適切に行う。(30)</p>
<p>設置計画履行状況調査時 (29年)</p>	<p>こども教育学部こども教育学科の定員充足率の平均が、0.7倍未満となっていることから、学生確保に努めるとともに、入学定員の見直しについて検討すること。</p>	<p>改善意見</p>	<p>入学定員の充足率について、改善を図るため、平成29年度は、当該学部の教育内容を具体的に知ってもらうための学部通信の発行、教員を対象とした学部説明会を本学で開催した。学部の魅力を積極的にPRする方法として、SNSを活用し、イベント情報や授業などの活動内容を発信し、常に情報を更新することで、受験生、保護者および高等学校の先生方に本学の魅力を伝えることができた。</p> <p>平成30年度は、前年度に比べ受験生および入学者数が微増という結果であり、入学定員充足の十分な改善につなげることはできなかった。</p> <p>この状況を踏まえ、平成31年度は、従来の広報活動のあり方を振り返り、改善事項を抽出して、さらなる充実を図っていく。</p> <p>また、改善意見として付された入学定員の見直しについては、すでに理事会において議論され、平成31年度の実施に向け調整を図ることが決定されている。(30)</p>		

<p>設置計画履行状況 調査時 (30年)</p>	<p>平均入学定員充足率が0.27倍と著しく低い。学生確保に努めるとともに、長期的な学生確保の見通しを客観的根拠に基づき分析し、入学定員について見直しも検討しつつ、収容定員の充足に努めること。</p>	<p>指摘事項 (是正)</p>	<p>入学定員充足率が著しく低いため、設置後2年間の定員充足状況を踏まえ、入学定員の変更(△30人減)を実施した。 また、当該学部と同分野の学部を設置している近隣の大学では、小学校一種免許状の取得ができる課程を設置しており、より充実した教育内容とするため、佛教大学と通信課程による小学校一種免許状の取得を可能とする協定を締結した。 さらに、県内高等学校との高大連携事業にも積極的に取り組み、具体的なプログラムを提示することで入学者の確保に努める。 (元)</p>	
-----------------------------------	--	----------------------	---	--

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<こども教育学部 こども教育学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
	該当なし

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

- ・ 本学では、平成30年度までは、全学的な教育の資質の維持向上を図る機関として、鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部に、自己点検・評価委員会を設置し、下部組織として、FD・SD部会を設置していたが、今年度からは、FD・SD推進委員会に改編し活動する。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

- ・ FD・SD部会は、必要に応じて随時開催（平成30年度は10回開催）している。
- ・ 構成員は、教員5名および事務職員2名で構成している。

c 委員会の審議事項等

- ・ FD・SD活動の基本方針に関する事項
- ・ FD・SD研修会に関する事項
- ・ 教育活動の組織的改善に関する事項
- ・ 事務機能の組織的改善に関する事項
- ・ 学生の授業評価の実施に関する事項
- ・ 授業方法の改善に関する事項
- ・ 教職員の研修及び資格取得に関する事項

② 実施状況

a 実施内容

- ・ FD・SD研修会（月1回程度）
- ・ 学生による授業評価アンケート
- ・ 授業評価アンケートの集計、分析および学生へのフィードバック
- ・ 教員相互による授業参観及び事後検討会

b 実施方法

- ・ 授業評価アンケート 年2回実施（前期と後期）
- ・ FD・SD研修会 毎月第3水曜日に開催
- ・ 授業参観 年2回実施（参観後、事後検討会を開催）

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・ FD・SD研修会 平成30年度は11回開催
- ・ その他研修会

三重県私立大学高専協会主催による合同FD・SD研修会に積極的に参加している。

- d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況
 - ・学長、副学長、学部長の役職者等で構成する「企画・運営部会議」において、FD・SD研修会の実施内容を報告している。その結果を踏まえ、活動の振り返りと課題を認識し、改善事項については、学長からの指示のもと、学部、学科、専攻単位の教員組織内で改善に向け取り組んでいる。
- ③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況
 - a 実施の有無及び実施時期
 - ・授業評価アンケートを実施している。
 - ・実施時期は、前期は7月、後期は1月に行っている。
 - b 教員や学生への公開状況、方法等
 - ・教員には、集計後のアンケート結果に基づき、コメントの提出を義務付けている。
 - ・学生には、アンケート集計結果と教員からのコメントをまとめ、自由に閲覧できるよう備付している。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
 「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

こども教育学部は、多文化共生を理解し、人間愛に基づく広い視野を持った人、自ら獲得した教育研究の成果を地域社会に還元し、地域社会の要請に応えられる人、社会的責任と役割に自覚し、他人と協働できる人という人材の養成を目的として設置。

こども教育学部は、教育・保育の専門家として、専門的な知識と実践的な技術を身に付け、教育者・保育者としての使命と責任感を持ち、地域貢献や社会貢献に資する人材の養成を教育理念におく。次代を担うこどもたちの育成、発達支援をする人物としてふさわしい養護教諭、幼稚園教諭・保育士等の養成を目的とし、幼児教育学専攻では、教育職員免許法・児童福祉法及び関連法規に則った、正しい知識と技術を持つとともに、現在の子育て環境の抱える課題に適切に対応できる専門性と保護者支援、子育て支援に対応できる幼稚園教諭・保育士等の養成する。また、養護教育学専攻では、教育職員免許法・児童福祉法及び関連法規に則った、正しい知識と技術を持つとともに、現在の教育現場の課題に適切に対応できる専門性を持ち、学内外と連携・協働できる養護教諭等の養成する。

設置から3年目を迎えるこの1年間は、今まで修得してきた基礎教育の分野から専門教育に移り、より高度な知識を修得することが求められるため、専攻ごとに必要な専門教育科目の修得に向け、教育目的に沿った教育を遂行する。

② 自己点検・評価報告書

a 公表(予定)時期

- ・令和元年6月末 公表(予定)

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公開 <https://www.suzuka-iu.ac.jp/about/assessment.html>

③ 認証評価を受ける計画

- ・本学は、平成28(2016)年度に日本高等教育評価機構による認証評価を受審し、大学評価の基準に「適合」しているとの認定を受けた。(認定期間は、7年間)
- ・今後の計画は、本学の自己点検・評価を実施するとともに、認証評価を受審する年度を検討する。

(注) ・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表（予定）の有無 （ 有 ・ 無 ）

b 公表（予定）有の場合の公表（予定）時期 （ 令和元年6月30日 ）

(注) ・ 「a ホームページに公表（予定）有無」には、5月1日時点で公表している場合、もしくは、今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

・ 「b 公表（予定）有の場合の公表（予定）時期」には、「a ホームページに公表（予定）有無」で「有」にマルを記入した場合のみ、時期を記入してください。